

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所 属・職 名 臨床・健康教育学系・准教授
 氏 名 笠 原 芳 隆
 研 究 期 間 平成 2 7 年度 ～ 平成 2 8 年度
 研 究 費 1, 1 0 7, 0 0 0 円

研究プロジェクトの名称	特別な支援が必要な子どもの教科指導推進のための教員養成プログラム検討に関する基礎的研究
研究プロジェクトの概要	本研究では、特別支援教育担当教員と教科教育担当教員が協働で、小・中学校や特別支援学校における支援が必要な子への教科指導の実態、ボランティアAを体験した本学学生の体験内容や意識等を明らかにし、支援が必要な子の教科指導推進のための教員養成プログラムを検討することを前提とした資料を得ることを目的に以下の調査を実施した。 1. 特別支援学校及び小学校教員を対象とした「支援が必要な子の教科指導の実態と課題」に関する調査 2. 全国の教育委員会を対象とした「通常の学級担任の特別支援教育等に関する専門性向上のための取組の実態や教員養成大学への要望」調査 3. 本学で「学校ボランティアA」を履修した学生を対象とした「ボランティア体験内容や体験中に悩んだこと」等に関する調査
成 果 の 概 要	1 の調査の結果：特別支援学校、小学校教員のいずれも、児童生徒への配慮の内容として障害特性に応じた「教材・教具の工夫」、座席配置をはじめとする「教室環境」等多様な角度から配慮・工夫（合理的配慮）を行っていた。一方で、特別支援学校では作成されている個別の指導計画が、小学校では約3分の2の作成率にとどまっていることが分かった。 2 の調査の結果：全国の教育委員会の多くが通常の学級担任を対象とした特別支援教育等に関する研修会開催や指導の手引き作成を行っており、教員養成大学において、支援が必要な児童生徒の特性の把握や個別の指導計画作成、特性に応じた教材・教具づくりができるような専門性を付けることを希望していることが分かった。 3 の調査結果：学生は、学年相応の漢字や計算の学習が困難な児童や落ち着いていられない児童等さまざまな実態の児童とかかわっており、当該の児童への支援の具体的な方法や支援の程度・範囲、教職員との連携の在り方等で悩んでいたことが明らかになった。 小学校等の教員を希望する学生に対して、将来自分の学級で各教科等の指導を行う際に、個別の指導計画作成を通じて支援の必要な児童を正しく理解し、板書や発問、教材・教具等多様な角度から実態に応じた配慮・工夫ができるような、また職員間で連携した指導ができるような内容を含む教員養成プログラムを考慮する必要があることが示唆された。
研究成果の発表状況	1 の特別支援学校教員を対象とした調査結果については、日本特殊教育学会第 54 回大会でポスター発表を行った。また小学校教員を対象とした調査結果は、上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要第 23 巻に投稿し掲載された。